



東宝株式会社

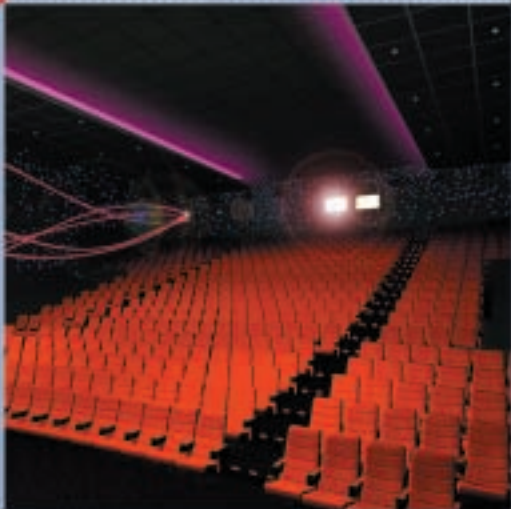
第 117 期 報 告 書

平成17年3月1日 から平成18年2月28日まで



東宝南街ビル

大阪なんばの地に堂々とその姿を現した「東宝南街ビル」。現在内装工事の真っ最中です。ここは明治30年（1897年）、日本で初めて映画の興行が行われた由緒ある地。9月22日にオープンするこのビルは、延床面積34,000㎡、地下1階から地上7階に（株）丸井様の関西2号店、8～11階は当社直営の「TOHOシネマズなんば」9スクリーンとなり、ミナミの新しい「顔」として皆様に親しまれるでしょう。



Contents

東宝株式会社 第117期 報告書

- 2 社長メッセージ
- 5 TOHOレビューオブ
オペレーション〈単体〉
- 11 単体財務諸表
- 13 連結財務諸表
- 16 東宝グループ概要
- 17 会社概要
- 18 株式情報

Top Message

社長メッセージ



平成18年5月 代表取締役社長

高井英幸

映画・演劇・不動産の各事業が一体となった
独自の事業モデルを遂行し、企業価値を高め、
社会的責任を果たしてまいります。

ごあいさつ

株主の皆様には平素より格別のご支援を賜り心より厚く御礼申し上げます。
第117期事業報告書をお届け申し上げます。
本報告書を通じて、当社へのご理解を深めていただく一助となれば幸いです。

2006年2月期決算について

Q 当期の成果を聞かせてください。

バラエティに富んだ配給作品が満遍なく稼働し、
前期に引続き単体1,000億円、連結2,000億円
の営業収入を達成いたしました。

当社は前期に「ハウルの動く城」など10年に一度ともいえる大ヒット作品に恵まれ、創立以来初となる単体営業収入1,000億円を達成しました。その翌年となる当期は反動が懸念されましたが、結果として映画製作・映画営業部門が、収入で前期比わずかに減少したものの、大きな特徴は「交渉人 真下正義」「電車男」「NANA-ナナー」「ALWAYS 三丁目の夕日」など各配給作品が満遍なく着実に好成績を

収めた点にあり、これは映画事業においては非常に珍しく、順調な1年であったといえます。

そのほかでは、アメリカ映画不調の影響を受けた映画興行部門、再開発のため芸術座を建替中の演劇部門、昨年DVD「世界の中心で、愛をさけぶ」が大ヒットした映像事業部門が前期比減となりましたが、大型再開発を進める不動産経営部門では既に再開発を終えた物件やスタジオが高効率に稼働し、前期並みとなりました。これらの結果、当期の営業収入は前期に引続き単体で1,000億円、連結で2,000億円をそれぞれ上回ることであります。

当社の経営戦略

Q 安定した経営を実現する基本戦略とは？

主軸である映画・演劇部門と、それらを支える不動産部門が三位一体となった経営を基本としています。

創立以来、当社は「映画・演劇などの質の高い娯楽を大衆に広く提供する」ことを企業使命かつ存在意義と位置づけ、そのためには「映像（映画製作・営業、映画興行、テレビ、映像事業）・演劇・不動産（含むスタジオ経営）の三事業が相互に補完し収益を確保する」経営が不可欠であると考えております。

さらに詳しくご説明させていただきますと、東宝にとりましては映画・演劇が主軸事業、いわば“車のエンジン”にはかなりません。しかしながら、モノづくりにおいて思い切った試みや新しい挑戦を重ねなければ人々に愛される大ヒット作品は生まれず、それゆえに常に“当たりはずれ”がつきまといます。このように宿命的に不安定要素を持つ映画・演劇事業を安定的に展開するための基盤、それが当社の不動産事業です。過去の長い映画斜陽の時代を経て映画・演劇事業を現在までに発展させるに至りましたのも、映画・演劇・不動産を三位一体で展開したからこそであり、当社の経営において映画・演劇事業と不動産事業は表裏一体となって収益を生み出すもので、互いに切り離せない関係にあります。

Q 不動産事業の基本方針を教えてください。

主軸事業を支える不動産事業は、安定収益の確保が最大テーマです。

映画・演劇という“エンジン”を動かす“ガソリン”の役割を担う不動産事業においては、いかに着実に利益を出すかが最重要課題となります。誤解を受けやすいのですが、当社の不動産事業は新規の土地売買や開発・分譲による収益を目的とするものではありません。東宝の創業者である

小林一三翁は映画興行を重視し早期より“百館主義”を掲げ、日本全国に土地を取得し映画館を建設しました。それら過去から保有する不動産物件を最大限に有効活用して安定収益を確保することが当社不動産事業の目的です。

主軸事業の支援を目的とするからこそ、一貫してリスクの高い不動産投資を行わず、結果として“バブル崩壊”による特段の被害を受けずに現在まで不動産事業における収益力を維持しています。

一方で、当社は土地と建物の双方を保有し、また各物件の多くが当初映画館として建てられたため大都市の一等地に位置しています。そのため、当社物件は非常に効率的に活用され、一例として当社の保有するビルは空室率が1％台で推移しています。

Q 積極的な再開発投資が行われていますが、

50年後、100年後の東宝の成長を見据えて、再開発投資を行っています。

不動産の有効活用による安定収益を基盤に映画・演劇部門を展開し、それらにより企業価値を高め、ひいては株主の皆様への還元に努めること。こうした正の循環を今後も継続すべく、2007年に創立75周年を迎える現在、当社は不動産の再開発投資を積極的に行っています。

不動産経営部門における再開発のテーマは大きく2つあり、一つは非常に利益率が高い状態ながら老朽化が進む賃貸ビルのメンテナンス、もう一つはシネマ・コンプレックス（シネコン）の影響による映画館の再開発です。大型ショッピングセンター等に併設した複合型映画館であるシネコンは、人々に映画を再び身近なものとする役割を果たしました。シネコンラッシュにより国内では約3,000スクリーンに達しながらも、シネコンの活況は続いており、当社においても自社シネコンを運営する映画興行部門、各社のシネコンに映画を配給する映画製作・営業部門の売上に貢献しています。一方で一等地にあるものの、シネコンにするには面積が足りない古い映画館はホテルやオフィスビル等

に再開発することで、当社の収益源として復活し、新たな街づくりにも貢献することとなります。特にバブル崩壊後のオフィスの統廃合や中高年齢層の旅行ブームにより、都市部の中心地にあるビジネスホテルの需要が高く、立地の良い当社物件をホテルとして再開発する例も増えています。

期中には名古屋東宝ビル、札幌東宝ビル、上野東宝ビル、アビティ目黒、熊本プラザビル、東宝日比谷ビル（改修）が続々と稼働し、今後も大掛かりなプロジェクトとして2006年9月に大阪の東宝南街ビル、2007年11月には旧東宝本社ビル（名称未定）が竣工予定で、さらには東京新宿各地域の再開発も研究に入っています。再開発により一時的に不動産の稼働率は下がるものの、竣工した物件はいずれも入居率100%と高く有効活用され、償却負担の減少に伴い、不動産事業は再び収益に大きく貢献することが期待されます。当社は不動産事業の収益を確保することで映画・演劇事業のリスクに備え、さらに収益力の高い映画・演劇コンテンツの製作・獲得や興行等の施設の改善に努め、主軸事業の継続的な成長を実現してまいります。

Q スタジオ経営の意義を教えてください。

次代の才能ある人々の交流が映画・演劇事業の発展につながっていきます。

不動産賃貸部門では2004年から東宝スタジオの再開発に着手し、現在第10ステージの改築中で、映画用ステージだけでなく初めてCM専用のステージもオープンしています。2007年秋までには12ステージ体制となり、ますます便利で使いやすいスタジオとなります。

現在そのニーズは非常に高く、映画ステージでは80%の稼働率、CMステージはフル稼働で申し込みをお待ちいただいている状況です。スタジオが有効活用されることは、収益面で貢献するだけでなく、CM界を含む新たな才能を持つ人々が交流する場となり、今後の当社の映画映像事業の発展に大きく貢献することとなります。東宝は映画事業においては興行や配給面に強みがあるといわれてきました

が、近年は外部の優れた才能とのコラボレーションにより作品力を高めてきました。外部からの映画への出資も着実に増えて結果としてヒット作にも恵まれ、収益の向上、さらには株主の皆様への還元につなげています。

株主の皆様へ

Q 東宝が担う社会的な役割とは何でしょうか。

日本の映画・演劇という文化を担う責任を果たし、株主の皆様の期待にお応えしてまいります。

冒頭にも申しあげましたように、当社は創立以来、映画・演劇を通じて健全な娯楽を広く皆様に楽しんでいただくことを会社の存在意義であると考え、国内外に優れた作品を数多く提供することに生きがいを感じながら事業に邁進してまいりました。企業として経済性を追求するに留まらず、映画・演劇という日本の文化を高める社会的責任を担ってまいりましたことは当社の大きな喜びであり、また株主の皆様には、そのような当社の取り組みに、永年にわたりご共感をいただき、ご支持いただいて来ることができたものと確信しております。

近年、国内でも様々な価値観からの企業買収が行われておりますが、当社は今後も映画・演劇・不動産という三事業を一体として展開し業績の一層の向上に努めることで、株主の皆様への還元、さらには日本の文化に貢献する使命を貫き通してまいる所存です。株主の皆様には当社の理念をご理解いただき、長期的かつ広い視野に立たれたご高見により、引続き厚いご支持ご支援を賜りたく、心よりお願い申し上げます。

営業の概況

当期におけるわが国の経済は、好調な世界経済を背景に回復が進み、個人消費や設備投資が緩やかに増加するとともに雇用情勢が改善し、株価は大幅な上昇がみられました。

映画界におきましては、スクリーン数は前年比101増の2,926に達しましたが、洋画の不振により映画人口は1億6千万人、興行収入は1,981億円となり、共に前年を下回りました。

このような情勢下において当社の業績は、前期の「ハウルの動く城」級のホームラン作品には欠けたものの「着実に壘を進める」作戦が奏効した映画営業部門と、複数物件の再開発が進行中の不動産経営部門がほぼ前年並みとなりましたが、映画興行、映像事業及び芸術座を3月で閉館した演劇の各部門は伸び悩みました。この結果営業収入は1,034億7千5百万円（前期比2.1%減）、経常利益は、子会社よりの配当金の増により190億4百万円（前期比10.4%増）、当期純利益は100億3千4百万円（前期比34.4%増）となりました。経常利益及び当期純利益は新記録となりました。

以下各部門ごとにご報告申し上げます。
（各部門とも数字は内部振替控除前のもの）

■ 映画製作・映画営業

「ローレライ」「あずみ2 Death or Love」「名探偵コナン 水平線上の陰謀」「交渉人 真下正義」「電車男」「星になった少年 Shining Boy & Little Randy」「劇場版NARUTOーナルト 大激突！幻の地底遺跡だってばよ」「容疑者 室井慎次」「NANAーナナー」「タッチ」「蟬しぐれ」「この胸いっぱい」の愛を」「春の雪」「ALWAYS 三丁目の夕日」「あらしのよるに」「劇場版超星艦隊セイザーX 戦え！星の戦士たち」

「劇場版ブラック・ジャック ふたりの黒い医者／Dr.ピノコの森の冒険」「輪廻」「THE 有頂天ホテル」「サイレン FORBIDDEN SIREN」「県庁の星」を製作いたしました。

また前記作品のほか「劇場版ロックマンエグゼ 光と闇の遺産／劇場版デュエル・マスターズ 闇の城の魔龍凰」「映画クレヨンしんちゃん 伝説を呼ぶ！ブリブリ3分ポッキリ大進撃」「戦国自衛隊1549」「劇場版ポケットモンスター アドバンスジェネレーション ミュウと波導の勇者ルカリオ」「劇場版甲虫王者ムシキング グレイテストチャンピオンへの道」「単騎、千里を走る。」のヒット作品を含む28本を配給いたしました。その結果、映画営業収入は370億4千3百万円（前期比0.1%減）となりました。

■ 映画興行

日劇プレックス、スカラ座、シネマメディアージュ、ナビオTOHOプレックス、伊丹TOHOプレックス、名鉄東宝、ファボーレ東宝等において興行を行いました。前記当社配給作品のほか、「スター・ウォーズ エピソード3／シスの復讐」「宇宙戦争」「シャル・ウィ・ダンス？」「ナショナル・トレジャー」「四月の雪」「Mr.&Mrs.スミス」「キング・コング」「チャーリーとチョコレート工場」「私の頭の中の消しゴム」「ハリー・ポッターと炎のゴブレット」「チキン・リトル」等多彩な話題作・ヒット作を上映いたしました。しかし洋画の一部作品が期待に届かなかった結果、映画興行収入は204億9千9百万円（前期比5.4%減）となりました。

なお、6月には京都市内に「TOHOシネマズ二条」（11スクリーン）をオープン、大阪ナビオTOHOプレックスには1スクリーンを増館いたしました。

その一方で、旧本社ビル建替えに伴い、旧みゆき座、日比谷映画劇場を閉館。また、70年を経た京都宝塚劇場及

び京都スカラ座、京極東宝1・2・3、名古屋市内のエンゼル東宝、名鉄東宝1・2を興行地図の変化に伴い閉館いたしました結果、直営劇場は2増の合計134スクリーンとなりました。

子会社関連では、東京都府中市に「TOHOシネマズ府中」9スクリーン、福岡県直方（おがた）市に「TOHOシネマズ直方」9スクリーン、茨城県ひたちなか市に「TOHOシネマズひたちなか」10スクリーン、同水戸市に「TOHOシネマズ水戸内原」8スクリーン、愛知県津島市に「TOHOシネマズ津島」10スクリーンのシネマ・コンプレックスをそれぞれオープンいたしました。

一方、入居ショッピングモールの営業終了に伴い埼玉県「志木ららぽーとシネマ」を閉館、これに加え老朽化等により閉館した高知東宝、函館東宝ほかを合わせて計18スクリーン（運営移管を含む）が減となりました。この結果グループで差引30増の合計486スクリーンとなり、東宝系興行網のスクラップ・アンド・ビルドがさらに進展いたしました。（上記合計スクリーン数には、それぞれ共同経営23を含んでおります。）

■ 演劇興行

帝国劇場においては、ミュージカル「レ・ミゼラブル」「ラ・マンチャの男」「モーツァルト！」「エリザベート」「マイ・フェア・レディ」「ツキコの月～そして、タンゴ～」「DREAM BOYS」「Endless SHOCK」が大ヒットいたしました。

芸術座は、名作「放浪記」が掉尾を飾り大入りとなりました。

新しく進出したアートスフィアでは「夢追い迷？探偵物語」、東京芸術劇場ではミュージカル「ちぎれた雲はどこ

へ行く」が堅実な興行を行いました。

青山劇場のクラシカル・ミュージカル「眠らない音」が大入りとなりました。

加えて、日生劇場のミュージカル「ジキル&ハイド」「ベガーズ・オペラ」「屋根の上のヴァイオリン弾き」が好成績を収めました。

さらに全国へと展開を続けている東宝演劇の各公演も部門収益に多大の寄与をいただきましたが、芸術座閉館による影響を補うには至らず、演劇興行収入は120億5千8百万円（前期比6.0%減）となりました。

■ テレビ

放送用映画番組は、帯ドラマ「危険な関係」65本、連続ドラマ「富豪刑事」3本に加えて、スペシャルドラマ「トリック新作スペシャル」、2時間ドラマ「新 細うで繁盛記」「津軽海峡ミステリー航路5」等6本を制作し、また劇場用映画「電車男」「サイレン FORBIDDEN SIREN」を製作いたしました。番組販売収入を加算したテレビ収入は17億3千8百万円（前期比0.2%増）となりました。

■ 映像事業

ビデオ事業は、レンタル用（VHS及びDVD）として「スウィングガールズ」「いま、会いにゆきます」「ゴジラ FINAL WARS」「笑の大学」「ローレライ」「名探偵コナン 水平線上の陰謀」「シャル・ウィ・ダンス？」「電車男」「星になった少年 Shining Boy & Little Randy」「NANAーナナー」等を提供いたしました。また、セルDVDとして「スウィングガールズ」「いま、会いにゆきます」「ゴジラ FINAL WARS」「笑の大学」「シャル・ウィ・ダンス？」「電車男」「星になった少年 Shining Boy & Little Randy」「NANAーナナー」のほか、セル用DVDボックス「ゴジ



■ 「ALWAYS 三丁目の夕日」
©2005 「ALWAYS 三丁目の夕日」製作委員会



■ 「THE 有頂天ホテル」
©2006 フジテレビ／東宝



■ 「Mr.&Mrs.スミス」



■ TOHOシネマズ二条（京都市）



■ 帝国劇場公演「レ・ミゼラブル」



■ 「危険な関係」

ラ・ファイナルBOX」「成瀬巳喜男THE MASTER WORKS I、II」「若大将サーフ&スノー DVD-BOX」「クレージーキャッツ無責任BOX」「若大将キャンパスBOX」「岡本喜八 MODERNS 狂騒編」等の販売を行いました。

出版・商品事業は「スター・ウォーズ エピソード3／シスの復讐」「劇場版ポケットモンスター アドバンスジェネレーション ミュウと波導の勇者ルカリオ」「宇宙戦争」「劇場版ロックマンエグゼ 光と闇の遺産／劇場版デュエル・マスターズ 闇の城の魔龍凰」「NANAーナナー」「四月の雪」「あらしのよるに」「ALWAYS 三丁目の夕日」「THE 有頂天ホテル」等が順調に稼働いたしました。

版權事業は「東宝怪獣キャラクター」「超星艦隊 セイザーX」「幻星神 ジャスティライザー」の商品化権収入に加え、「シャル・ウィ・ダンス?」ほかによる各種受取配分金がありました。以上により映像事業収入は、215億9千4百万円（前期比2.8%減）となりました。

■ スタジオ・不動産経営

東宝スタジオにおきましては、「開かれたスタジオ」を合言葉に積極的な営業展開を続けた結果、「タッチ」「春の雪」「THE 有頂天ホテル」など東宝配給作品を中心に20本の映画製作を誘致、映画ステージは80%を超える高い稼働率で推移いたしました。6月から「スタジオ改造計画」のトップを切って稼働を始めた2棟のCM専用ステージは予想を上回る100本以上のCM作品が入り、部門の収益に大きく貢献いたしました。

不動産経営部門におきましては、東宝日比谷ビルオフィス棟の大規模改修が完了し、昨年4月の東宝本社移転を始め各階に順次テナントが入居し、全館稼働に至りました。再開発案件では、昨年3月に飲食施設「上野東宝ビル」、4月に賃貸マンション「アビティ目黒」、7月にビジネス

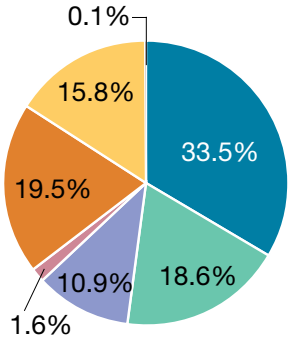
ホテル「熊本プラザビル」が竣工し、それぞれ業績に貢献いたしました。一方で建設中の東宝南街ビル等に加え、京都宝塚ビル、京極東宝ビル、東宝食堂ビル、函館東宝ビルなどが再開発のため休館に入り、スタジオ・不動産経営収入は174億6千9百万円（前期比0.01%減）となりました。

その他の営業諸収入は1億3百万円となりました。
以上の営業収入合計額1,105億8百万円より内部振替額70億3千2百万円を控除した額が前記営業収入となっております。

（注：本報告書中の記載金額は、表示単位未満を切捨てております。）

● 当期部門別営業収入比率

- 映画製作・映画営業 37,043百万円
- 映画興行 20,499百万円
- 演劇興行 12,058百万円
- テレビ 1,738百万円
- 映像事業 21,594百万円
- スタジオ・不動産経営 17,469百万円
- 他 103百万円



来期の見通し

今後の経済情勢は、景気回復の道筋は見えたものの、金利上昇の懸念や国際情勢の不安定要因など、なお楽観を許さないものと思われます。

映画業界は、本年中にはいよいよスクリーン数が3,000を超え、一部映画館同士の競争が進むとともに、大ヒット作品の多寡が興行界の盛衰を左右すると思われます。

そのような中、当社の来期における業績の見通しは、営業収入875億円（前期比15.4%減）、経常利益160億円（前期比15.8%減）となりますが、特別損失の減少が見込まれるため、当期純利益は101億円（前期比0.6%増）をそれぞれ予想いたしております。

以下各部門の見通し（2月末現在）をご説明申し上げます。

■ 映画製作・映画営業

「名探偵コナン 探偵たちの鎮魂歌」^{ミステリー}「チェケラッチョ!!」「LIMIT OF LOVE 海猿」「嫌われ松子の一生」「トリック劇場版2」「着信アリ ファイナル」「日本沈没」「ゲド戦記」「劇場版NARUTOーナルトー3 大興奮!みかづき島のアニマル騒動だってばよ!」^{パニック}「ラフ ROUGH」「UDON（仮）」「シュガー&スパイス〜風味絶佳〜」「愛の流刑地」「劇場版BLEACHーブリーチー A MEMORY OF NOBODY（仮）」を製作いたします。（これらの作品は共同製作作品です。）

前記作品の他、配給受託作品として「映画ドラえもん のび太の恐竜2006」「真救世主伝説 北斗の拳 ラオウ伝 殉

愛の章」「映画クレヨンしんちゃん 伝説を呼ぶ踊れ!アミーゴ!」「劇場版ポケットモンスター アドバンスジェネレーション ポケモンレンジャーと蒼海の王子マナフィ」等を配給いたします。

■ 映画興行

前記当社配給作品に加え、「ミッション・インポッシブル3」「ダ・ヴィンチ・コード」「カーズ」「エラゴン/遺志を継ぐ者」「パイレーツ・オブ・カリビアン2」等の大作・話題作を上映する予定でございます。

なお、当社直営のシネマ・コンプレックスとして3月17日千葉県八千代市に「TOHOシネマズ八千代緑が丘」10スクリーンが、また9月には大阪市に「TOHOシネマズなんば」9スクリーンがそれぞれオープンいたします。

東宝本体以外のグループ各社では、3月11日熊本市に「TOHOシネマズはません」9スクリーン、4月20日「TOHOシネマズ錦糸町」8スクリーン、4月27日岐阜県本巣市に「TOHOシネマズモレラ岐阜」12スクリーンがオープンいたします。そして7月には岡山市に「TOHOシネマズ岡南（こうなん）」10スクリーン、10月には鹿児島市に「TOHOシネマズ与次郎（仮称）」10スクリーン、神戸市に「OSシネマズMINT KOBE（仮称）」8スクリーンをオープンし、興行網のさらなる充実をはかります。



■ DVD「NANAーナナー」



■ 「THE 有頂天ホテル」を撮影中の東宝スタジオ



■ 賃貸マンション「アビティ目黒」



■ 7月公開予定「ゲド戦記」
©2006 二馬力・GNDHDDT



■ 「ダ・ヴィンチ・コード」
©2006 Sony Pictures Entertainment (J) Inc.



■ 帝国劇場6月公演
ミュージカル「ミー&マイガール」

■ 演劇興行

帝国劇場においては、3月「Endless SHOCK」、6月ミュージカル「ミー&マイガール」、7月・8月ミュージカル「ダンス オブ ヴァンパイア」、9月「放浪記」、10月「ご存知！夢芝居一座」、11月・12月ミュージカル「マリー・アントワネット」、1月「DREAM BOYS」、2月「Endless SHOCK」等の充実した舞台を繰り広げます。

日生劇場では、4月ミュージカル「レ・ミゼラブル」、5月「エリザベート」を上演いたします。さらに、東宝演劇公演を積極的に全国へと展開いたします。

■ テレビ

テレビ部門では、帯ドラマ「偽りの花園」、連続ドラマ「富豪刑事デラックス」に加えて、2時間ドラマ等を中心にテレビ番組を制作し、また劇場用映画「トリック劇場版2」等を企画、製作いたします。

■ 映像事業

ビデオ事業は、レンタル用として「タッチ」「あらしのよるに」「ALWAYS 三丁目の夕日」「THE 有頂天ホテル」「単騎、千里を走る。」等を提供し、セル用として「タッチ」「あらしのよるに」「THE 有頂天ホテル」「単騎、千里を走る。」「若大将 フレッシュマンBOX」「コント55号結成40周年記念ムービーBOX」「クレージーキャッツ 日本一ボックス」等で売上伸長をはかります。

出版・商品販売は「ドラえもん のび太の恐竜2006」「名探偵コナン 探偵たちの鎮魂歌」「ダ・ヴィンチ・コード」「ゲド戦記」「ポケットモンスター アドバンスジェネレーション ポケモンレンジャーと蒼海の王子」を中心に展開いたします。

版權事業は、戦隊特撮物テレビシリーズ第3弾「超星艦隊 セイザーX」及び「東宝怪獣キャラクター」による商品化権ビジネスに注力し、版權事業の収入増を目指します。

■ スタジオ・不動産経営

東宝スタジオでは、新No.10ステージ、俳優・レストラン棟、製作スタッフ棟が竣工し、また新たに管理事務所棟などの建築が始まり、スタジオ施設がさらに充実いたします。

不動産経営部門では、高松東宝ビル（ビジネスホテル）が3月15日、アビティたまプラーザ（賃貸マンション、横浜市）が3月24日、ともに竣工いたします。一方、大阪市の東宝南街ビルは本年9月の、また旧本社ビル（名称未定）は来年秋の竣工へ向けて、それぞれ順調に工事が進捗しております。さらに、解体工事中の京都宝塚ビル、京極東宝ビル、東宝食堂ビル（東京都）、函館東宝ビルにつきましても、解体終了後速やかに新築着工する予定です。そのほか全国で稼働中の賃貸物件において、順次設備の改善を実施し、さらなる収益の改善をはかってまいります。

配当金について

配当金につきましては、おかげ様をもちまして第117期業績の好調により、別紙の通り1株につき15円として定時株主総会においてご決議をいただきました。

当社といたしましては今後一層の経営の充実をはかり、業績向上を期すべく努力いたす所存でございます。なにとぞ引き続きご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

配当金のお支払いにつきましては、特にご指定のない方は同封の郵便振替支払通知書により、払渡期間（平成18年5月31日～平成18年6月30日）中に最寄りの郵便局にてお受け取りください。（同通知書をお取引の普通または当座預金口座のある銀行窓口にお持ちいただくことにより、その口座へ入金することもできます。）

また、銀行預金口座振込をご指定の方にはお振込みの手続をいたしましたので、同封の「利益配当金計算書」及び「配当金振込先のご確認について」によりご確認ください。

来期の配当予想について

第118期の配当予想につきましては、1株当たり中間5円、期末15円（普通配当5円に加え特別配当10円）の計20円を予想いたしております。

会社の利益配分の基本方針

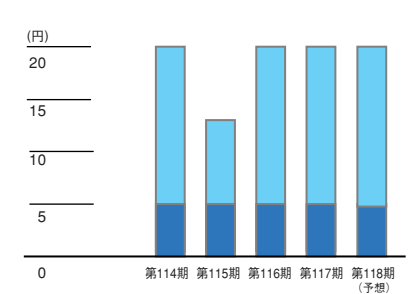
当企業集団の主要事業であります映画・演劇は、作品により損益の変動が絶えず、安定配当確保と財務体質強化のため内部留保に努めてまいりましたが、収益に対しバランスの取れた株主還元を行うことも重要と認識しております。

かかる方針のもとに当社は第99期（1987年）より年額100円の配当を続けてまいりました。また2002年4月には投資単位引下げのため1：10の株式分割を実施し、第114期（2002年）は創立70周年記念配10円を合わせ年額20円の配当を実施、以後期業績を反映させて第115期は年額13円（特別配当3円を含む）、第116期は年額20円（同10円を含む）、そして第117期も年額20円（同10円を含む）の配当を行いました。

今後も年額10円の普通配当を堅持しつつ、業績と資金需要に意を配りながら株主還元に努めてまいり所存です。

内部留保の使途につきましては、優れたコンテンツの獲得、シネマ・コンプレックスの展開、所有不動産リニューアル等、中長期的展望に基づき企業集団収益基盤の強化に当ててまいります。

1株当たり配当金の推移



利益処分

(単位: 円)		
摘 要	当 期 平成17年3月1日から 平成18年2月28日まで	前 期 平成16年3月1日から 平成17年2月28日まで
当期末処分利益	18,692,137,181	17,523,417,467
これを次のとおり処分いたしました。		
利益配当金	2,831,944,725 1株につき15円 (うち普通配当 5円 特別配当10円)	2,832,207,165 1株につき15円 (うち普通配当 5円 特別配当10円)
役員賞与金 (うち監査役賞与金)	90,000,000 (6,500,000)	90,000,000 (6,500,000)
別途積立金	5,000,000,000	5,000,000,000
次期繰越利益	10,770,192,456	9,601,210,302

- (注) 1. 平成16年8月31日現在の株主に944,159,785円（1株につき5円）の中間配当を実施いたしました。
2. 平成17年8月31日現在の株主に944,023,565円（1株につき5円）の中間配当を実施いたしました。



■ 「偽りの花園」



■ DVD 「タッチ」



■ 俳優・レストラン棟完成予想図

貸借対照表

科目	当 期	前 期
	平成18年2月28日 現在	平成17年2月28日 現在
資産の部		
流動資産	29,076	60,138
現金及び預金	4,366	5,512
受取手形及び売掛金	7,391	6,763
有価証券	591	3,246
たな卸資産	4,531	4,425
繰延税金資産	1,186	740
現先短期貸付金	8,999	36,997
その他	2,622	2,817
貸倒引当金	△613	△366
固定資産	219,671	168,432
1 有形固定資産	82,880	72,308
建物及び構築物	53,231	47,949
機械装置及び運搬具	693	624
器具及び備品	620	588
土地	20,335	20,017
建設仮勘定	7,999	3,127
無形固定資産	1,159	1,170
借地権	934	934
その他	225	236
投資その他の資産	135,631	94,954
2 投資有価証券	97,658	61,071
関係会社株式	21,377	20,621
関係会社長期貸付金	8,720	7,074
差入保証金	8,170	6,900
その他	3,665	2,558
貸倒引当金	△3,960	△3,272
資産合計	248,748	228,571

1 有形固定資産

東宝日比谷ビル改修、アピティ目黒新築等により10,572百万円増加いたしました。

2 投資有価証券

株式相場の回復による保有株式の含み益の増加及び(株)フジテレビジョン株式の取得等により37,342百万円の増となりました。

(単位：百万円)

科目	当 期	前 期
	平成18年2月28日 現在	平成17年2月28日 現在
負債の部		
流動負債	42,151	44,492
買掛金	7,618	6,879
関係会社短期借入金	19,880	20,090
未払金	3,414	4,087
未払費用	4,849	4,610
未払法人税等	1,145	3,449
賞与引当金	290	283
アスベスト対策工事引当金	139	—
その他	4,812	5,092
3 固定負債	56,133	48,605
社債	20,000	20,000
繰延税金負債	14,804	8,380
退職給付引当金	2,020	2,075
役員退職慰労引当金	836	857
アスベスト対策工事引当金	148	—
預り保証金	18,272	17,159
リース資産減損勘定	50	133
負債合計	98,284	93,098
4 資本の部		
資本金	10,355	10,355
資本剰余金	10,603	10,603
資本準備金	10,603	10,603
利益剰余金	101,942	95,774
利益準備金	2,588	2,588
任意積立金	80,662	75,662
土地圧縮積立金	197	197
別途積立金	80,465	75,465
当期末処分利益	18,692	17,523
その他有価証券評価差額金	27,838	18,982
自己株式	△276	△243
資本合計	150,463	135,472
負債及び資本合計	248,748	228,571

3 固定負債

株式含み益の増加等により繰延税金負債が6,424百万円の増となりました。

4 資本の部

その他有価証券評価差額金が8,855百万円増加しております。

損益計算書

(単位：百万円)

科目	当 期	前 期
	平成17年3月1日から 平成18年2月28日まで	平成16年3月1日から 平成17年2月28日まで
経常損益の部		
営業損益		
営業収入	103,475	105,717
営業原価	57,670	60,908
販売費	14,300	12,635
一般管理費	17,193	16,809
営業利益	14,310	15,363
営業外損益		
収入利息及び配当金	4,606	2,332
その他の営業外収益	347	104
営業外収益計	4,953	2,436
支払利子	222	264
その他の営業外費用	36	317
営業外費用計	259	581
経常利益	19,004	17,218
6 特別損益の部		
特別利益		
受入補償金	916	—
過年度損益修正益	303	—
その他	49	—
特別利益計	1,268	—
特別損失		
固定資産取壊費用	2,714	2,274
減損損失	—	919
固定資産除却損	1,356	397
貸倒引当金繰入額	1,120	540
立退補償金	458	156
投資有価証券評価損	10	845
アスベスト対策工事引当金繰入額	287	—
本社移転費用	106	—
その他	65	141
特別損失計	6,118	5,274
税引前当期純利益	14,154	11,943
法人税、住民税及び事業税	4,217	5,206
法人税等調整額	△97	△726
当期純利益	10,034	7,464
前期繰越利益	9,601	11,002
中間配当額	944	944
当期末処分利益	18,692	17,523

5 経常利益

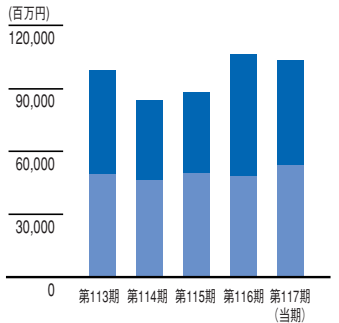
収入利息及び配当金が子会社よりの配当金の増等により2,274百万円増加し、1,786百万円の増となりました。

6 特別損益の部

前期にありました減損損失919百万円がなくなり、投資有価証券評価損845百万円が10百万円の計上にとどまりました。

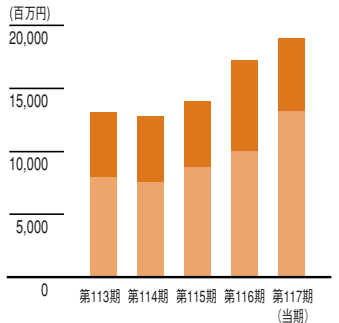
●営業収入

■中間 ■期末



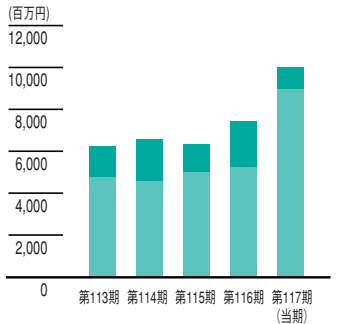
●経常利益

■中間 ■期末



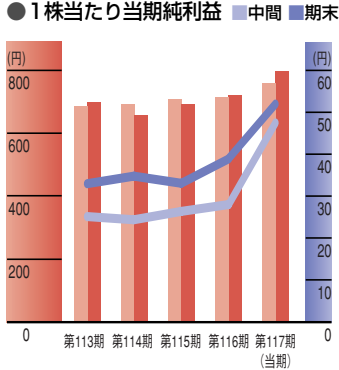
●当期純利益

■中間 ■期末



●1株当たり純資産

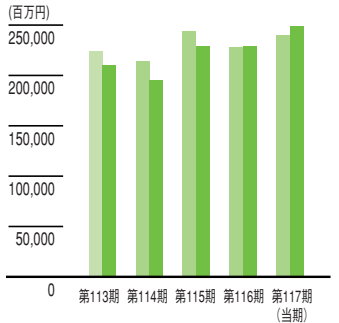
■中間 ■期末



※第113期の1株当たりの数値は、比較のため10分の1に換算して表示しております。

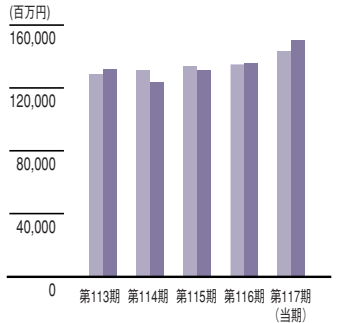
●総資産

■中間 ■期末



●純資産

■中間 ■期末



連結貸借対照表

科目	当 期	前 期
	平成18年2月28日 現在	平成17年2月28日 現在
資産の部		
流動資産	74,332	104,904
現金及び預金	24,814	26,084
受取手形及び売掛金	16,933	16,804
有価証券	4,821	7,211
たな卸資産	12,468	11,533
繰延税金資産	2,706	2,629
1 現先短期貸付金	8,999	36,997
その他	4,125	5,301
貸倒引当金	△536	△1,658
固定資産	298,002	242,395
有形固定資産	139,771	126,213
建物及び構築物	79,245	71,659
機械装置及び運搬具	5,388	5,373
器具及び備品	4,828	4,451
貸与資産	6,684	6,093
土地	35,066	34,237
2 建設仮勘定	8,558	4,398
無形固定資産	10,541	11,315
借地権	1,034	1,034
連結調整勘定	8,013	8,485
その他	1,493	1,795
投資その他の資産	147,688	104,866
投資有価証券	119,024	78,027
繰延税金資産	1,788	3,547
差入保証金	16,616	14,302
その他	11,437	10,008
貸倒引当金	△1,178	△1,019
資産合計	372,335	347,300

1 現先短期貸付金

建物の改修・建替及び株式の取得等に充当しましたため、27,998百万円の減少となりました。

2 建設仮勘定

建設中の「東宝南街ビル」等により4,160百万円の増加となりました。

(単位：百万円)

科目	当 期	前 期
	平成18年2月28日 現在	平成17年2月28日 現在
負債の部		
流動負債	49,876	51,268
買掛金	12,446	11,273
短期借入金	11,737	12,417
未払金	4,946	5,405
未払費用	7,779	6,696
未払法人税等	3,400	5,490
未払消費税等	358	805
賞与引当金	1,022	1,082
アスベスト対策工事引当金	446	—
受注損失引当金	42	—
その他	7,695	8,097
固定負債	79,768	72,141
社債	20,000	20,000
長期借入金	5,958	5,503
繰延税金負債	19,251	12,755
退職給付引当金	6,053	6,127
役員退職慰労引当金	1,585	1,707
アスベスト対策工事引当金	148	—
預り保証金	26,497	25,810
その他	273	235
負債合計	129,645	123,409
少数株主持分		
少数株主持分	23,094	22,814
資本の部		
資本金	10,355	10,355
資本剰余金	11,892	10,603
利益剰余金	166,421	159,627
土地再評価差額金	1,145	1,145
4 その他有価証券評価差額金	30,520	20,195
自己株式	△740	△851
資本合計	219,595	201,076
負債、少数株主持分及び資本合計	372,335	347,300

3 アスベスト対策工事引当金

第118期に実施予定の同工事費用を引当計上しております。東宝グループでは、アスベスト問題の顕在化以降ただちに調査に入り、万全の対策をとっております。

4 その他有価証券評価差額金

保有株式の含み益の増により10.325百万円増加いたしました。

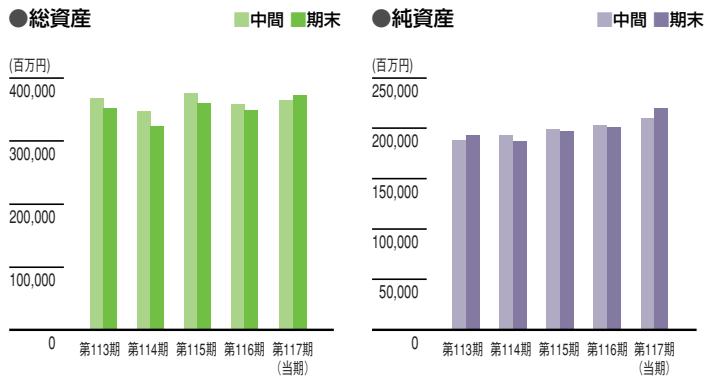
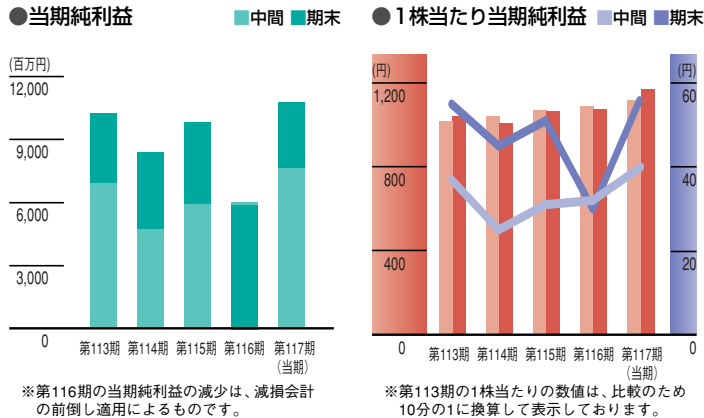
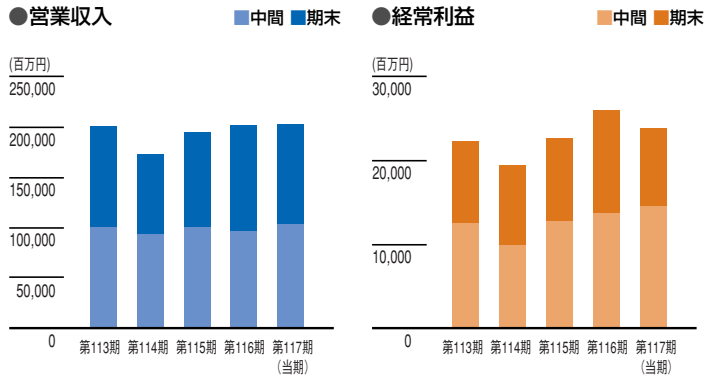
連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	当 期	前 期
	平成17年3月1日から 平成18年2月28日まで	平成16年3月1日から 平成17年2月28日まで
5 営業収入	202,990	202,191
営業原価	130,506	129,077
販売費及び一般管理費	50,848	47,709
営業利益	21,634	25,404
営業外収益	2,686	1,354
営業外費用	446	871
経常利益	23,873	25,886
特別利益	2,526	1,189
特別損失	6,851	18,464
税金等調整前当期純利益	19,548	8,611
法人税、住民税及び事業税	7,401	8,703
法人税等調整額	1,000	△3,421
少数株主損益	383	△2,532
5 当期純利益	10,763	5,862

5 営業収入及び当期純利益

それぞれ過去最高の記録となりました。当期純利益は83.6%の大幅増となりましたが、これは前期にありました子会社の減損損失の大幅減等によるものです。



連結剰余金計算書

(単位：百万円)

科目	当 期	前 期
	平成17年3月1日から 平成18年2月28日まで	平成16年3月1日から 平成17年2月28日まで
1 資本剰余金の部		
資本剰余金期首残高	10,603	10,601
資本剰余金増加高	1,289	1
自己株式処分差益	1,289	—
転換社債の転換による資本剰余金増加高	—	1
資本剰余金期末残高	11,892	10,603
利益剰余金の部		
利益剰余金期首残高	159,627	156,436
利益剰余金増加高	10,763	5,883
当期純利益	10,763	5,862
その他	—	21
利益剰余金減少高	3,969	2,692
配当金	3,733	2,424
役員賞与	236	267
利益剰余金期末残高	166,421	159,627

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科目	当 期	前 期
	平成17年3月1日から 平成18年2月28日まで	平成16年3月1日から 平成17年2月28日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	24,062	20,832
2 投資活動によるキャッシュ・フロー	△52,509	△10,565
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,531	△12,285
現金及び現金同等物に係る換算差額	164	△151
現金及び現金同等物の増減額	△30,813	△2,169
現金及び現金同等物の期首残高	68,010	70,020
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	19
合併により受け入れた現金及び現金同等物の残高	—	141
現金及び現金同等物の期末残高	37,197	68,010

1 資本剰余金の部

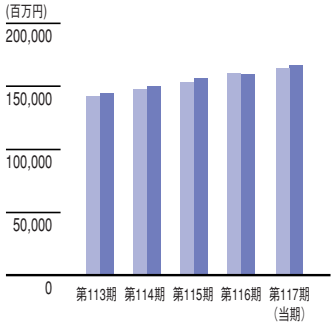
子会社で保有していた株式の処分
差益により、前期末に対し1,289
百万円増加いたしました。

2 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資有価証券の取得33,772百万
円、有形固定資産の取得30,124百
万円等により、前期比41,943百万
円の減少となりました。

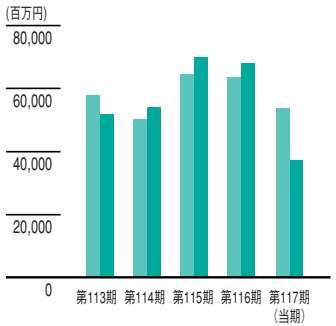
●利益剰余金残高

■中間 ■期末



●現金及び現金同等物の残高

■中間 ■期末



TOHOシネマズなんばエントランス（予想図）
ガラスを主体とした明るさにあふれたデザイン
です。

東宝グループ各社（連結子会社53社、持分法適用会社4社）

映画製作・配給

(株)東宝映画 …… 映画の企画・製作
東宝国際(株) …… 映画・テレビ・ビデオなど東宝作品の輸出代行、商
品化権の海外向許諾業務
東宝東和(株) …… 洋画の輸入・配給
(株)東京現像所 …… フィルムの現像、CG・デジタル合成などの処理

映画興行

TOHOシネマズ(株) … VIRGIN TOHO CINEMAS六本木ヒルズ・TOHOシ
ネマズ府中など、117スクリーンの映画館経営
東宝東日本興行(株) … TOHOシネマズひたちなか・TOHOシネマズ宇都宮
など、62スクリーンの映画館経営
東宝関西興行(株) … TOHOシネマズ緑井・TOHOシネマズ高知など、27
スクリーンの映画館経営
九州東宝(株) …… 天神東宝（福岡）・TOHOシネマズ光の森など、48
スクリーンの映画館経営
中部東宝(株) …… TOHOシネマズ木曽川・TOHOシネマズ東浦など、
37スクリーンの映画館経営
北海道東宝(株) …… 札幌東宝公衆・恵庭東宝シネマ8など、11スクリー
ンの映画館経営
三和興行(株) …… 新宿スカラ座など14スクリーンの映画館経営、不動産の賃貸
関東共栄興行(株) …… 長野東宝中劇の経営
関西共栄興行(株) …… 松江SATY東宝・米子駅前SATY東宝の経営
九州共栄興行(株) …… 下関・長崎における映画館経営
(株)渋谷文化劇場 …… 渋谷シネタワー3の経営
(株)公衆会館 …… 東宝公衆（京都）の経営、ビルの賃貸

映像の製作・販売

(株)日本映画新社 …… PR映画・記録映画の企画・制作、映像ライブラリー事業
東宝ミュージック(株) …… 映画・ミュージカルなどの音楽製作、音楽原盤・著作権の管理
(株)東宝映像美術 …… 映画・テレビ・CMなどの美術製作、テーマパーク・
イベントの企画・デザイン・施工
(株)東宝ビルト …… テレビ・CMなどの美術製作、スタジオのレンタル
(株)東宝コスチューム …… 映画・テレビ・イベント・テーマパークなどの衣裳
の製作・レンタル
東宝舞台(株) …… 演劇・テレビなどの舞台美術・小道具・衣裳の製作
東宝アド(株) …… テレビ・新聞・雑誌など広告媒体の取扱代理業、映像・
ポスターなど各種宣伝広告物の企画・デザイン・制作

演劇事業

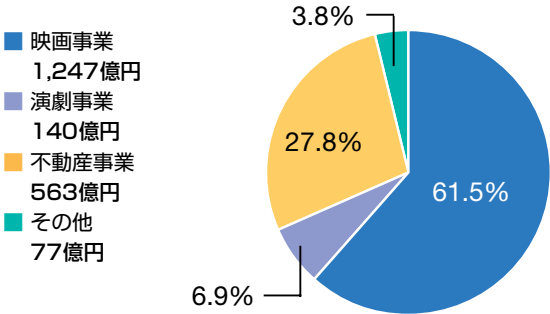
東宝芸能(株) …… 映画・演劇・テレビなどへの俳優の斡旋、演劇の企
画・製作、イベントの企画・製作
(株)東宝エージェンシー …… 演劇公演の団体入場券の斡旋・販売

不動産の賃貸等

国際放映(株) …… スタジオのレンタル、テレビ番組の企画・制作
東宝不動産(株) …… 東宝ツインタワービル・帝劇ビルなど不動産の賃貸、劇
場内売店の経営、飲食店の経営、保険代理業、介護事業
札幌公衆興業(株) …… 東宝公衆会館（札幌）の賃貸
萬活土地起業(株) …… 長崎・熊本・鹿児島におけるビルの賃貸

●当期セグメント別営業収入比率

■ 映画事業
1,247億円
■ 演劇事業
140億円
■ 不動産事業
563億円
■ その他
77億円



(株)高知三映社 …… 高知東宝会館の賃貸
新天地(株) …… 広島宝塚会館の賃貸

道路事業

スバル興業(株)他13社 …… 道路の維持清掃及び補修工事、飲食店の経営、有楽
町スバル座の経営

不動産の保守・管理

(株)東宝サービスセンター …… ビルの管理・清掃・警備（東京・仙台・北海道など）、
映画館の運営請負
東宝ビル管理(株) …… ビルの管理・清掃・警備（近畿・中部・九州など）、
映画館の運営請負
(株)東宝セキュリティ …… ビルの警備

飲食・娯楽事業

東宝共栄企業(株) …… 日曜大工センター（成城・調布）、調布ゴルフコース、
調布テニスクラブの経営
(株)東宝エンタープライズ …… 東宝ダンスホールの経営
(株)東宝ステラ …… 東宝作品のビデオ・パンフレット・キャラクター商
品などの流通・販売、映画原版・プリントの管理
東宝食堂(株) …… 飲食店の経営

リース業

阪急東宝リース(株) …… 各種リース取引

持分法適用会社

オーエス(株) …… OS劇場など13スクリーンの映画館経営、OSビルな
ど不動産の賃貸、梅田OSホテルの経営
(株)東京楽天地 …… 錦糸町楽天地ビルの賃貸、錦糸町シネマ8楽天地な
ど映画館の経営、ボウリング場・サウナなどの経営
成旺印刷(株) …… パンフレット・ポスター・チラシなど、各種印刷物の製作
(株)アイアックス …… 道路の維持補修

■会社概要（平成18年2月28日現在）

会社名	東宝株式会社
設立	昭和7年8月12日
資本金	10,355,847,788円
従業員数	333名 但し、社員（出向者142名、出向受入者5名を除く）のみ
本社	東京都千代田区有楽町一丁目2番2号
支社	関西（大阪）
スタジオ	東京 世田谷（成城）
映画直営劇場	本社直轄76スクリーン （共同経営12スクリーンを含む） 関西支社直轄58スクリーン （共同経営11スクリーンを含む） 計134スクリーン
演劇直営劇場	本社直轄1劇場（帝国劇場）
その他の営業所 （主な賃貸ビル）	有楽町センタービル（通称有楽町マリオン） 東宝日比谷ビル（通称日比谷シャンテ） 東京宝塚ビル ナビオ阪急（通称HEPナビオ）
主な事業内容	
映画	映画の製作、売買、賃貸借及び興行
演劇	演劇の企画、製作及び興行
テレビ	テレビ放送番組の制作及び販売
映像事業	映画のパンフレット及びビデオソフトの製作並びに販売、商品化権に関する事業、その他
不動産経営	土地及び建物の賃貸借、その他

■役員（平成18年5月30日現在）

代表取締役 取締役会長	松岡 功	
代表取締役 取締役社長	高井 英幸	映像本部長兼グループ経営企画担当
専務取締役	山田 啓三	不動産経営担当
専務取締役	千田 諭	映像本部映画営業、同宣伝各担当
専務取締役	中川 敬	スタジオ担当
専務取締役	増田 憲義	演劇担当
常務取締役	高橋 昌治	人事、労政、総務各担当兼グループ経営企画担当補佐
常務取締役	島谷 能成	映像本部映画調整、同映像制作各担当
取締役	小林 公平	阪急電鉄株式会社名誉顧問
取締役	大隈 廣	労政担当
取締役	越智 幸次	関西支社長
取締役	藤原 正道	映像本部映像事業担当兼映像事業部長
取締役	浦井 敏之	経理・財務、情報システム各担当
取締役	村上 主税	映像本部映画興行担当
取締役	島田 達也	人事部長
常勤監査役	赤井 紀雄	
常勤監査役	岸 三郎	
監査役	大西昭一郎	弁護士
監査役	大橋 太郎	阪急電鉄株式会社相談役

Investor Information

株式情報（平成18年2月28日現在）

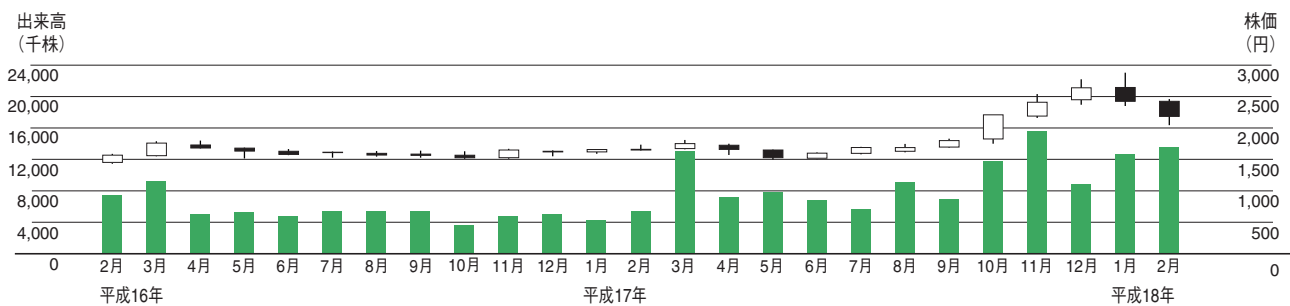
■株式の状況

会社が発行する株式の総数	300,000,000株
発行済株式の総数	188,990,633株
当期末株主数	26,936名 （前期末比 3,439名増加）

■大株主（上位10名）

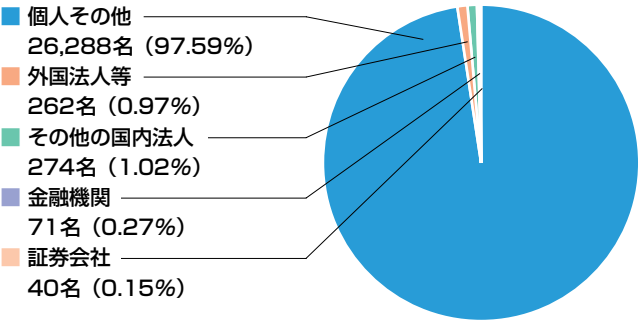
株主名	当社への出資状況		当社の当該株主への出資状況	
	持株数 （千株）	出資比率 （％）	持株数 （千株）	出資比率 （％）
阪急ホールディングス株式会社	22,807	12.06	4,083	0.39
阪急不動産株式会社	15,150	8.01	—	—
株式会社阪急百貨店	13,664	7.23	8,630	4.59
ステートストリートバンク アンドトラストカンパニー	6,041	3.19	—	—
株式会社フジテレビジョン	4,940	2.61	183	6.23
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社（信託口）	4,430	2.34	—	—
社団法人映画文化協会	4,005	2.11	—	—
バンクオブニューヨーク・シーエム クライアントアカウンツイーアイエスジー	3,430	1.81	—	—
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社（信託口）	3,312	1.75	—	—
日本生命保険相互会社	3,239	1.71	—	—

■株価・出来高の推移

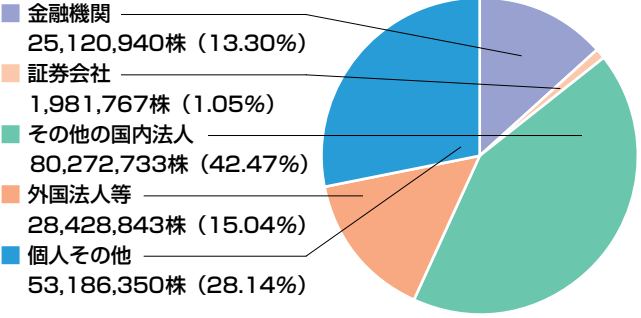


■所有者区分別株式分布状況

株主数



株式数



■株主メモ

事業年度 3月1日～翌年2月末日
定時株主総会 5月中
配当金受領株主確定日 期末配当金 2月末日
中間配当金 8月31日
基準日 定時株主総会 2月末日
その他必要あるときは、あらかじめ公告して臨時に基準日を定める。

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
(同送付先) 〒137-8081東京都江東区東砂七丁目10番11号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
電話 0120-232-711
同取次所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
野村證券株式会社 全国本支店
変更届等用紙のご請求は次の通り承っております。
電話 0120-244-479
(三菱UFJ信託銀行株式会社)
インターネットホームページ
<http://www.tr.mufg.jp/daikou/>
公告掲載新聞 日本経済新聞

■株主優待

株主映画招待券交付基準

1,000株以上	毎月	1枚
2,000株以上	同	2枚
3,000株以上	同	3枚
5,000株以上	同	6枚
10,000株以上	同	10枚
20,000株以上	同	15枚
30,000株以上	同	20枚
50,000株以上	同	25枚
100,000株以上	同	30枚

2月末日現在の株主に6月から11月までの6ヶ月分を5月中に発行。
8月末日現在の株主に12月から翌年5月までの6ヶ月分を11月中に発行。

株主映画優待券交付基準（800円で映画をご覧頂けます。）

100～499株	半年	2枚
500～999株	半年	8枚

2月末日現在の株主に6月から11月まで半年間通用の券を5月中に発行。
8月末日現在の株主に12月から翌年5月まで半年間通用の券を11月中に発行。

〒100-8415

東京都千代田区有楽町一丁目2番2号

東宝株式会社

総務部 電話 (03) 3591-1214

<http://www.toho.co.jp>